

笹本議員／区とのコミュニケーションギャップを埋める、これが私の仕事 藤沢(久)議員／建設委員会に「住民の声を陳述する機会」を提案していきたい



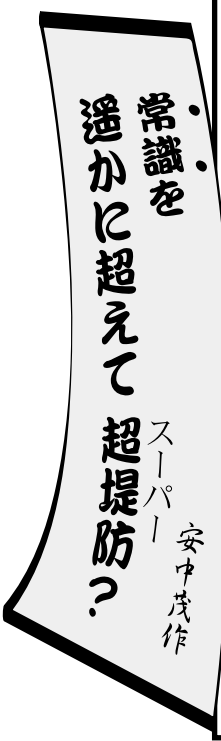
正面左側 左から藤沢区議(日本共産党)と笹本区議(民主党)。

「スーパー堤防・街づくりを考える会」は10月29日(日)午前10時から、北小岩コミュニティ会館に、江戸川区議会議員の笹本ひさし区議(民主党)・藤沢久美子区議(日本共産党)のお二人を招いて住民懇談会を開きました。会場には70人余の方々が参加し、約2時間にわたり真摯な意見交換がおこなわれ、両区議の話しに意を強くする一方、さらなる活動を続けねば、と感じました。

懇談会に先立ち、会を代表して戸口素男氏が、皆様から寄せていただいた反対署名約4、360名分を江戸川区議会事務局へ提出したことを報告し、又「会」は一党一派や特定宗派に属するものではなく、市民の立場からスーパー堤防とは何か・江戸川の堤防が決壊したことがあるのか・北小岩に巨大な堤防は必要か、などを考えるために集まった有志の勉強会で、誰でも参加できる「会」であることを説明しました。そして5月以来、勉強会を重ねた成果を資料として配布し、最近の新聞報道から国の堤防建設への考え方の変化や、川口市と国交省が荒川のスーパー堤防建設を見送ったことを紹介、さらに区が住民意見交換会では決して口にしなかった「北区浮間での荒川スーパー堤防崩落」の写真などを紹介しました。これらの資料を手に、区議との懇談会がおこなわれました。

「スーパー堤防」問題について区議との懇談会がおこなわれました

安中茂作のスーパー川柳 第四弾



会ではあらかじめ両区議に①北小岩地域でのスーパー堤防と区画整理事業について、どう思うか。②住民の声をどう認識しているか。③陳情署名への協力要請。の3点を主テーマとお願いしておきました。お二人の見解は以下の通りです。

【区議の基本的姿勢】

笹本区議：私は地元で15年住んでいる。趣味の魚釣りの関係で、スーパー堤防のことは知っていたが、1986年の河川審議会が話が出た時、専門家に聞いても内容をよく知らなかった。

都内で最も美しい地域が公共工事で潰されるのは堪え難い。地元の気持ちを耳にしたら超党派・超党派・超党派の枠組みにとらわれない。皆の心を一つにするのは可能ではない。

藤沢区議：スーパー堤防の調査費の予算案に賛成。治水対策は関宿でなされており、利根川の川床は低くされ、平時4200mくらいしか江戸川に入っていない。スーパー堤防は全国で6河川870km・1兆6000億円、400年も要する事業は不要と思う。

また、区画整理は地元住民の納得を得なくては進めるべきではない。住民の負担が余りにも大きく、これでは街づくりではなく「街」わしになる。住民の声は真摯に受け止め、区政に反映させたい。陳情には賛成、推進には反対。全会一致で採択されるよう頑張る。

（スーパー堤防の調査費の予算案に反対）
笹本区議：区と対決姿勢をとるべきではない。「我々の思いはこうだ、理解してくれ」と。区と住民のコミュニケーションギャップを埋める、これが私の仕事と思っている。

【住民の意見】①

- ・200年に一度の根拠はどこに？
- ・スーパー堤防は国交省からいわれたのか、江戸川区がやりたい、といったのか。
- ・国交省が来ないのは何故か。
- ・江戸川区の説明が毎回違うのは何故か。
- ・都はムダな公共事業は止めたいはずだ。何故江戸川区は進めるのか。
- ・藤沢区議：治水対策に名を借りたムダな公共事業と認識している。
- ・国交省、江戸川区のどちらが先かは分らないが、ただスーパー堤防は街づくりとセットにならなければ着手できない。
- ・住民側からも国交省に出てくるように要望して欲しい。